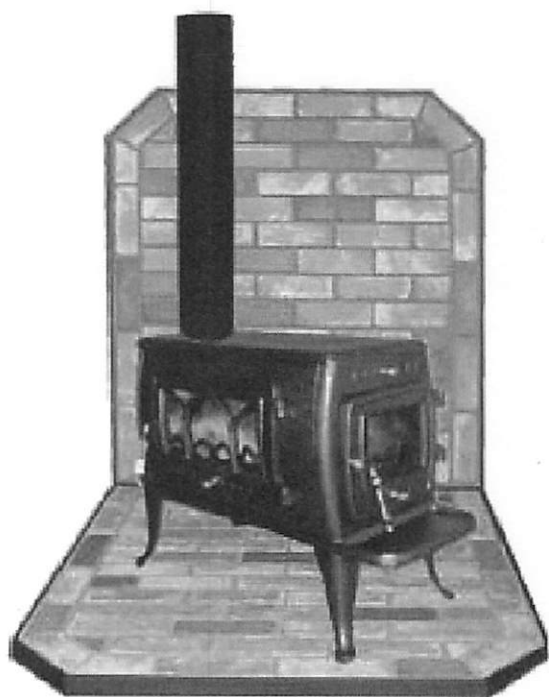


HONMA MSシリーズ

鋳物薪ストーブ取り扱い説明書

The instructions manual of Cast iron wood burning stove



設置イメージ図

製品番号

MS-406TX

仕様

- 輻射式鋳物ストーブ
- サイズ W385xD700xH570mm
- 重量 約85kg
- 煙突径 ϕ 120mm
- 暖房面積 約20~25坪
- ロストル付き・温度計付属
- 生産国 中国製

※ご使用になる前に、必ずこの「取り扱い説明書」をお読み下さい。

またお読みになった後は大切に保管して下さい。

本製品は品質向上のため予告無く仕様及び外観を変更する場合があります。

(((○))) HONMA 株式会社 ホンマ製作所

〒950-1237 新潟県新潟市南区北田中801番地8

TEL (025)362-1235(代) FAX (025)362-1238

Eメール support@honma-seisakusyo.co.jp

URL www.honma-seisakusyo.co.jp

この度は当社製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございました。
当製品を安全にご使用していただくため、下記の事項を守って下さい。

使用上の注意

●注意事項は次の2つに分類しています

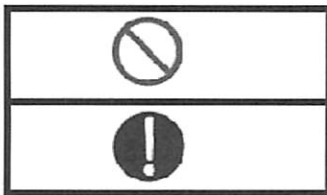


このマークは取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重症を負う危険性、また火災や火傷等の危険性が考えられる場合



このマークは取扱いを誤った場合、使用者が障害を負う危険性または物的障害のみの発生が考えられる場合

●本文中のマークは次の意味を表しています



マークは絶対に行ってはいけない事を表しています



マークは必ず守っていただきたい事を表しています

警告

① 燃焼中はストーブや煙突に素手で触らない



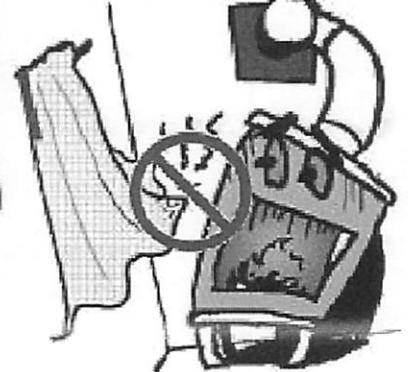
使用中は非常に高温で触ると危険です
触る場合は革手袋などをして下さい

② 薪以外の燃料は絶対使用しない



火力が強くなり過ぎ、異常燃焼を起こしたり、
鋳物面が破損する恐れがあります

③ カーテンなど燃えやすい物の近くへ設置しない



可燃物の変形、引火の恐れがあります
電化製品も近くにあると危険です

④ 化学繊維、合板、竹などを薪として使用しない



火力が強くなり、鋳物面を破損させる
恐れがあります

⑤ 引火性、可燃性の物を近くに置かない



引火して爆発や火災を起こす
原因となります

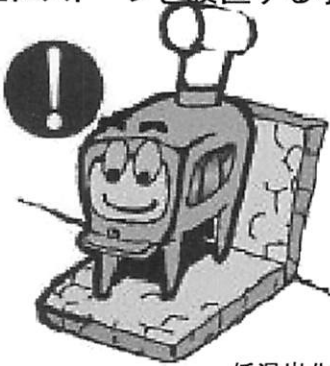
⑥ ストーブの上で洗濯物を干さない



引火して火災を起こす原因となります

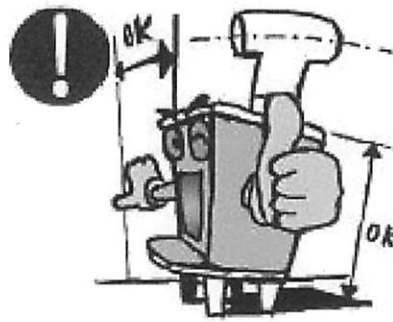
⚠ 注意

①不燃材を使用した炉台の上
にストーブを設置する事

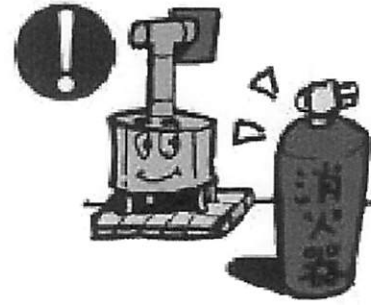


低温炭化を起こし、火災の原因になります

②ストーブと壁の離隔距離
を十分に取る事

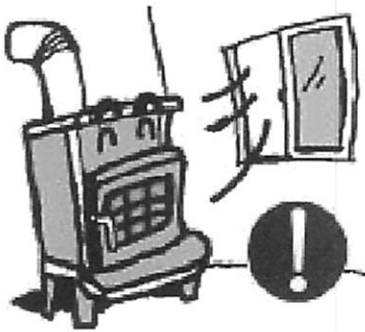


③万が一に備え、消火器の
場所を確認する事



ストーブのある部屋へ常備する

④燃焼中は時々換気する事



一酸化炭素中毒を防ぐため換気して下さい
1時間に1回、1~2分程度

⑤薪投入時以外燃焼中は
ストーブの扉を閉める事



火の粉が落ちたり煙が大量に溢れ
出し、室内を汚す恐れがあります

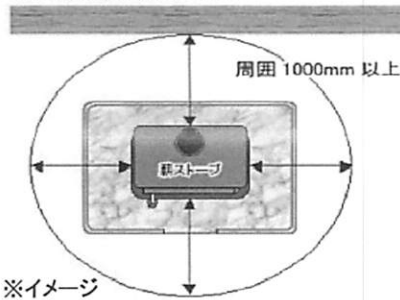
⑥煙突はこまめに点検し
定期的に掃除をする事



煙突に煤やタールが詰まり、
不完全燃焼や煙道火災を引き
起こす危険性があります

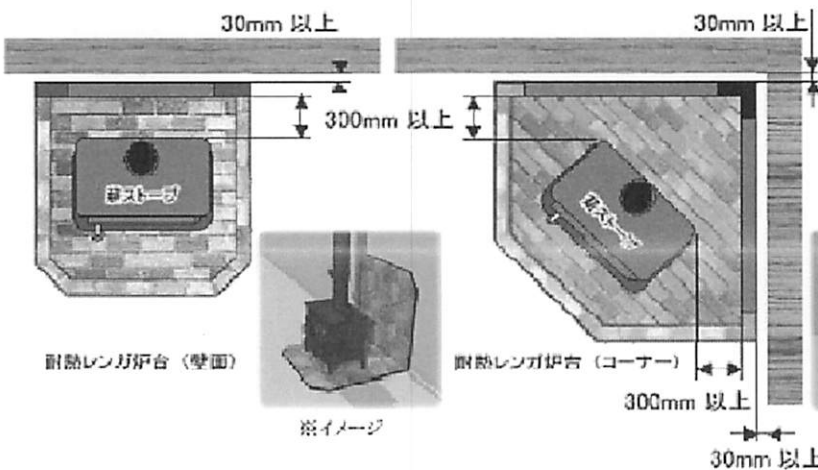
❗ 鋳物薪ストーブは、ストーブ台や炉台の上に設置しましょう

可燃性壁材または可燃物との阻隔



ストーブ本体や煙突からの輻射熱によって床や壁が焦げないよう
必ず薪ストーブを設置する際はストーブ台や炉台を設けて下さい

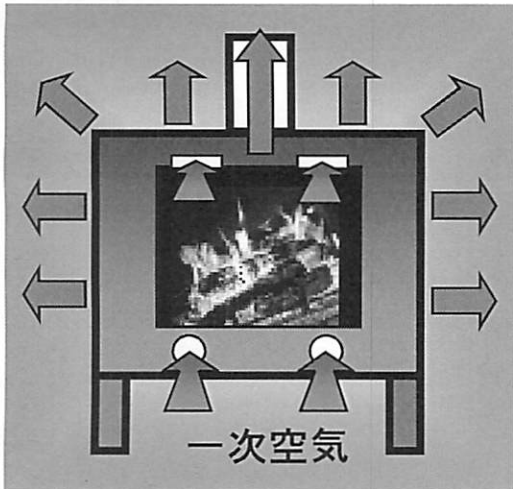
←薪ストーブと壁との間に耐火壁が無い場合は、壁から1m
以上の離隔を取って下さい。また可燃性のあるものから
も1m以上離して下さい。



←炉壁、耐火壁がある場合は
そこから30cm以上離隔を
取って下さい。

【ワンポイント】
炉壁や耐火壁は壁材と
密着しないように30mm
以上の空気層を設けて
下さい。

① 輻射式 鋳物薪ストーブについて



※イメージ

シンプルな機能で暖かい 鋳物薪ストーブ

輻射式薪ストーブとは？

輻射式は本体から発する熱により部屋を暖める一番ポピュラーでベーシックな燃焼方式です。この輻射熱は遠赤外線ですので、体の芯からゆったりと温めてくれます。またお部屋の空気を取り込み燃焼し、煙を室外へ排出することにより、お部屋の空気を循環させ健康的な暖房ができます。

② 各部名称について

中挿シアダプター

煙突受け (120mm用)

上フタ (大小2箇所)

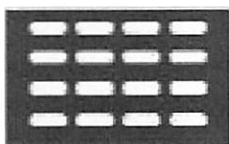
上部空気取入れ口
焚き口扉

バッフルプレート
(火室内上部)

前面耐熱ガラス
(150x205mm)
空気取入れ口

側面用ハンドル (脱着式)

ハンドル
(脱着式)



鋳物側板
(火室内右側面)

側面空気取入れ口

側面耐熱ガラス
(325x160mm)

ロストル (目皿)



ガラス面鋳物フェンス



フェンス
(ロストル前方に立てる)

※予め耐熱ガラスは金具で固定してありますが輸送中に緩む場合もありますので、ご使用前に緩んでいないか点検して下さい。

耐熱ガラスは耐熱温度600℃の日本製を使用しています。

耐熱ガラスは衝撃に弱いので、取扱いにご注意下さい。

交換ガラスのご注文、その他部品のご用命は販売店、若しくは弊社までご連絡下さい。

③本体組立て手順

ご注意： 本製品は鋳物製のため非常に重い商品です。
組立て時、移動したり持ち上げたりする際は必ず2人以上で行なって下さい。 またケガをしないよう、組立てには十分注意して下さい。

部品明細

ストーブ本体  1	脚部  アジャスター付き2本 アジャスター無し2本	煙突受け  φ120煙突用 1	ドアハンドル  焚き口扉用 1
ロストル  1組	六角ハンドル サイド扉用 1 鋳物ハンドル 上フタ用 1	M8六角ボルトセット  六角ボルト、ワッシャー大 ※1セット予備 各5	M6 皿ネジ  皿頭ネジ ※1本予備 4
フェンス  薪落下防止 1	温度計  マグネット式 1	中挿しアダプター  タールの垂れ防止 1	煙突受けに乗せて使用 

※多少形状が変わる場合があります

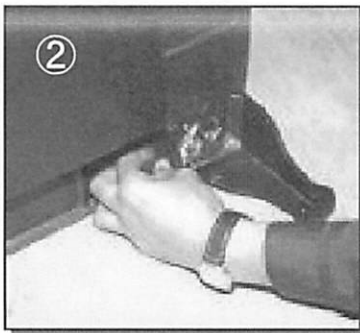
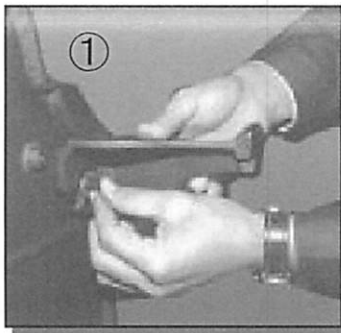
※目皿など内部部品は消耗品ですのでご注文の際は販売店、又は弊社まで問い合わせ下さい

I) 梱包木枠を外し、ダンボール箱を取り除いて下さい。

(廃材の処理はお住まいの地域の分別回収に従って処理をお願いします)

II) 焚き口扉を開け、中の部品箱を取り出し、部品点数を確認して下さい。

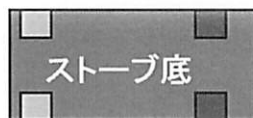
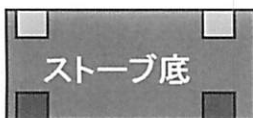
III) ストーブを倒し、脚を取付けます。(倒す際はガラスにご注意下さい)



①六角ボルトにワッシャー(大)を通してストーブ本体の裏へ脚をあてながら仮留めします。

②脚の位置がよければレンチ等で絞めて下さい。

※アジャスター付の脚は対角に取り付けず、どちらか平行になるように取り付けて下さい



■ アジャスター付き
 □ アジャスター無し



③本体組立て手順 つづき

- IV) 脚を取り付けたらストーブ本体を起こして下さい。
V) 煙突受けを取り付けます。

③



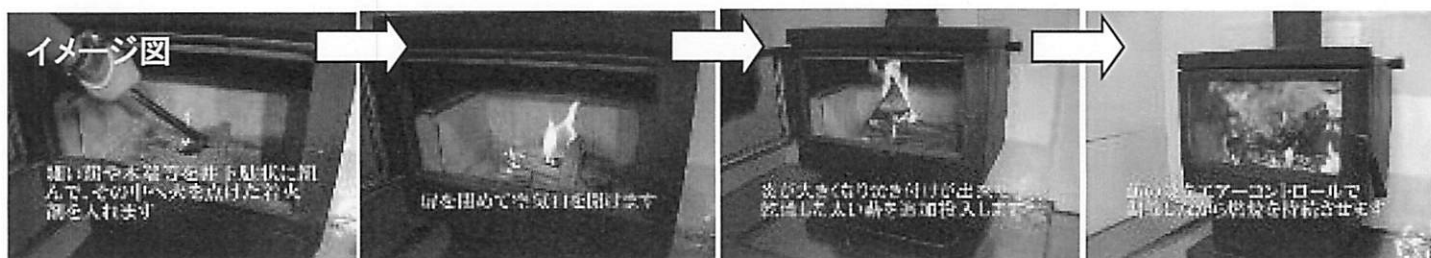
③煙突受けをストーブ上面の煙突口に合わせ、ネジ穴を合わせてください。
M6皿ネジを左図のようにプラスドライバーで3箇所仮留めしてから、本締めして下さい。
必要に応じて中挿しアダプターをご使用下さい。

- VI) ストーブを設置する場所へ移動したら煙突をセットして完成です。
本体のガタツキが無いようにアジャスターで調節してください。

④ご使用方法

I) 薪の焚き付け例

※薪は必ず乾燥した薪をご使用下さい。



空気取入れ口を全て開け
薪ストーブ用着火材を1、2個
細い薪の下に置き着火します

着火したら扉を閉めて

空気口の調整をしながら細い薪に着火し勢いが出てきたら
太い薪を投入して下さい

補足: 着火の際は煙が多く出ます。

薪ストーブ用着火材を使いますと焚き付けがカンタンです。

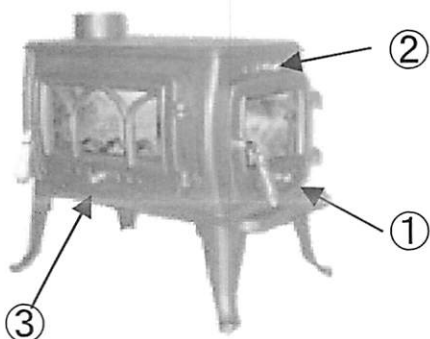
また薪が湿っていますと着火しにくい場合があります。

注意: 耐火ガラスに薪が当たらないように薪を投入して下さい。

注意: 初期燃焼中はストーブ表面の塗料が焼ける臭いがしますが、異常ではありません。

しばらく換気してご使用下さい。その後臭いはしなくなります。

II) 空気調節(火力調整)

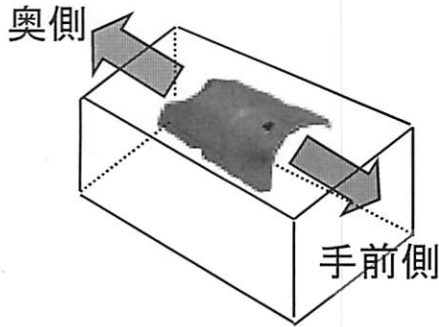


注意: 燃焼中は火傷に注意し、操作は必ず手袋や革手を装着して行って下さい

- 1) 着火時は①、②空気取入れ口を開け、③の空気取入れ口も開けて下さい。
- 2) 順調に火が点き始めてきたら、炎の勢いを確認して下さい。この時ストーブ温度計等で表面温度も確認することをお勧めします。
- 3) 炎の勢いが上がり、温度が上がり過ぎないように①、②を調節して適正温度で燃焼するようにして下さい。
- 4) ①、②を完全に閉めますと燃焼が弱まります。
- 5) 薪が「おき火」になったら薪を追加投入して下さい。
- 6) 消火の時は①、②を完全に閉めて下さい。

Ⅲ) バッフルの使い方

※バッフルをスライドさせ、煙の排気をコントロールします。



手前側: 焚き始めの煙が多く発生する時にバッフルを、手前側へスライドさせ、奥を開けます。(煙を煙突側へ送ります)

奥側: 通常使用時はバッフルを奥へスライドさせた状態でご使用下さい。常時この状態でもOKです。(火室内で煙の流れを作り、燃焼効率を上げます)

注意: 燃焼中にバッフルをスライドさせる際は必ず手袋をして鋳物ハンドルでスライドさせて下さい

注意: 焚き口扉の開閉時は煙が室内に出ますので、火傷に気を付けて速やかに行なって下さい

Ⅳ) 灰の後始末

ストーブ内に溜まった灰はまだ熱を持っていますので後始末する際も十分注意して下さい。灰を入れる容器等は燃えない材質のバケツ等に入れフタをして密閉し保管下さい。全ての灰を取り除かず少し残しておけば次に使う時の火種の温床になり鋳物も痛めません。灰は一般に「燃えないゴミ」※ですので、ゴミの回収に出される場合は、小分けして袋に入れ「燃えないゴミ」の日に出して下さい。

念のためお住まいの市町村の環境課へ問い合わせ下さい。

※新潟市の場合

⑤ストーブのメンテナンス

鋳物薪ストーブを効率よく使用するためには、日頃のお手入れが大切です。

ストーブの補修や煙突掃除などは定期的に行なって下さい。またメンテナンス用品や掃除用品を各種取り揃えておりますので、当社またはストーブ販売店へ問い合わせ下さい。

 <p>ガラスクリーナー #84 耐熱ガラスの ス・汚れ落とし 乳液タイプ</p>	 <p>ガラスクリーナー #82 耐熱ガラスの ス・汚れ落とし スプレータイプ</p>	 <p>耐火セメント #77 鋳物用 鋳物の接着、 目地補修</p>	 <p>耐火セメント #77E ガスケット用 ガスケット ローブの接着</p>	 <p>ガスケットローブ 6mm x 1m 8mm x 1m</p>
 <p>耐熱ペイント 鋳物表面の塗装 保護・補修</p>	 <p>耐火セメント #64 鋳物の補修 耐火レンガの補修</p>	 <p>煙突クリーナー WI-21212 煙突内の掃除パウダー</p>	 <p>ネジ付ワイヤーブラシ Φ106用、Φ120用 Φ150用があります</p>	 <p>煙突掃除棒 4本つなぎ (90cm x 4本) 先端にブラシを付けられます</p>
 <p>耐熱シリコン シーラント #76A 雨仕舞など 幅広く使え ます チューブ入</p>	 <p>耐熱シリコン シーラント #76 雨仕舞など 幅広く使え ます カートリッジ用</p>	 <p>ストーブ ポリッシュ #70 鋳物表面の ワックス サビ防止に</p>	 <p>ファイヤースターター #50C 廃材をリサイクルした 焚き付け用の着火材</p>	 <p>ストーブグローブ #702 高級革使用のストーブ用手袋</p>

⑥ 鋳物薪ストーブの使い始めと慣らし運転

この薪ストーブは熱に強い鋳物を素材として使われていますが、新しいストーブはまだ高温に対して馴染みがありません。特に急激に高温まで上げてしまいますと、最悪の場合、変形することがありますので、ご注意下さい。この現象を防ぐために慣らし運転が必要です。

- ① ストーブ内に予め、灰を入れて下さい。
- ② ストーブ温度計を使用の場合、200℃前後で3時間程度燃焼します。
※始めはストーブ全体から煙が立ち上がります。これは塗料が焼けて発生する煙です。しばらくしますと煙も出なくなりますので、換気しながら慣らしして下さい。
- ③ 3時間経過したら一度火を消して、表面が冷めるまでお待ち下さい。
- ④ その後、再度200℃前後で3時間程度燃焼させます。
この作業を2～3回行ってから本格的にご使用下さい。

薪ストーブ用温度計の取り付け場所



付属品

ストーブ上面

煙突表面

煙突に取り付ける場合はステンワイヤーをご使用下さい（落下防止）

マグネット式ストーブ温度計

特徴：ストーブ本体に取り付けが簡単
見やすい場所へ取り付けて下さい

付属の温度計は形状が異なる場合があります

薪ストーブの温度目安（ご使用の温度計により、表記に差があります）

注意：煙突表面の温度よりストーブ上面温度が高いため温度上げ過ぎにご注意下さい

200℃以下	低温燃焼は煙が多く発生し、クレオソート・煤が多く発生します 空気口を開け燃焼を促進させて下さい 十分乾燥した薪をご使用下さい
約200℃～300℃	適正燃焼温度です。
300℃以上	ストーブの温度が高すぎますので、鋳物を傷めたり周囲が加熱する原因になります 空気口を絞り火力を下げて下さい

※薪以外は燃やさないで下さい。特にプラスチック、ビニール系は絶対にストーブ内で燃やさないで下さい。またベニヤ板、合板などは混合物及び接着剤により大変高温になりますので危険です。

※松や杉など針葉樹はヤニや煤が多く発生しますので注意して下さい。

※最初にきちんと慣らし運転を行わず、鋳物の損傷が起きた場合は交換等の要請をお受けできませんので、必ず慣らし運転を行なって下さい。

薪の選び方について

薪は大きく分けて「広葉樹」と「針葉樹」があり、その特性を知って入手して下さい。

	主な薪	成長	火力	着火性	煙の量	火の粉	入手性
広葉樹	ナラ	遅い	高い	中間	少ない	少ない	容易
	カシ	遅い	高い	中間	少ない	少ない	困難
	サクラ	中間	高い	悪い	少ない	中間	困難
針葉樹	赤松	早い	低い	良い	多い	多い	容易
	杉	早い	低い	良い	多い	中間	容易
	ヒノキ	早い	低い	良い	多い	多い	容易

広葉樹は他にも・・・
リンゴ、白樺、ブナなど

針葉樹は他にも・・・
唐松、もみの木など

薪ストーブ・煙突の設置について

煙突も薪ストーブ暖房にとって重要な部分です。設置方法が不十分ですと性能及び安全性を損なう恐れがあります。薪ストーブは薪(燃料)を燃焼させる事により、温まった煙突内部の空気がドラフト効果(上昇気流)をおこし、煙を煙突から屋外へ排出します。燃焼温度が高ければ気流は大きくなり、スムーズな排出が出来ますが、外気温が低過ぎますと煙突が温まらずに排出がうまく出来ません。

そして排煙に含まれるタール等が急激に冷やされると液化して、クレオソートの原因となり、煙突内部に付着し、それが堆積して煙道を狭くしたり、煙道火災を起こしてしまう原因ともなりますのでご注意ください。

煙突は外気になるべく触れないような構造が望ましいですが、シングル煙突よりも断熱効果のある二重煙突を設置するのが良いでしょう。

また二重煙突は煙突内部の排煙温度を冷気から守るだけではなく、壁から煙突を出す際のように、煙突から熱を受け易い箇所、可燃物の近くを煙突が通るなどといった場合安全面を考慮して二重煙突にして下さい。

ストーブの取り付け、煙突の設置は建物及びお部屋の構造、風向き、屋根の勾配、雪の影響、火災予防などを考慮し、条件に合った部材を選び、正しく設置して下さい。

煙道火災について

煙道内に堆積したスス・タールなどが高温に熱せられ瞬間的に発火する事があります。これが煙道火災です。煙道火災は上記で述べたように、排煙が冷やされスス・タールが堆積しますと、起こり易くなります。煙突表面温度は非常に高温となり、煙突が真っ赤になるケースもあります。また壁などに熱が伝わり、火災になる恐れがありますので、これを防ぐため煙突掃除は定期的に必ず行なって下さい。

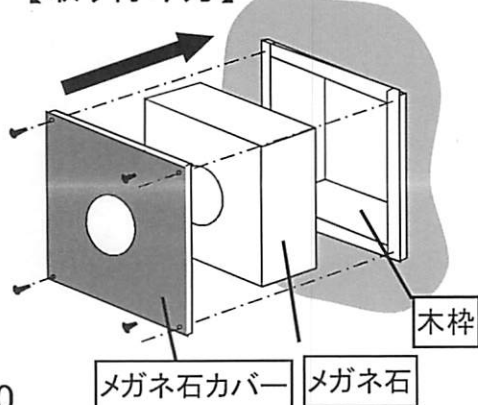
また水分の多い生木や松、杉などの薪はスス・タールが発生し易いので、煙突掃除はこまめに行なって下さい。また煙突クリーナー等の触媒を利用することによって、タールやスス等を落とし易くし、煙突掃除を軽減するものもありますので、ご利用下さい。

低温炭化について

ストーブ本体や煙突表面からの輻射熱により、数年間に渡って木材の表面が炭化して行く現象が「低温炭化」現象です。これは木材の種類、壁面・床・天井の材質や構造によって80℃位の低温からでも発生します。低温炭化を防ぐにはストーブ本体、煙突から離隔距離を保ち、設置して下さい。

煙突を壁から出す場合はメガネ石を使用して下さい。

【取り付け方】



- ① メガネ石を納めるための木枠を作成。
- ② この木枠が納まる大きさに壁を抜き、木枠を固定する。
- ③ 木枠にメガネ石をはめ、僅かでも空間が出来る場合は眼鏡用断熱材で完全に隙間を埋める。
- ④ メガネ石カバーを木枠にビス止めし、カバーの周りを耐熱コーキングして完成。

注意：壁を抜く場所が柱や間柱、筋交いに当たらないようご注意ください。

：メガネ石は壁の厚さよりも厚いものを選んで下さい。

：二重煙突の場合は煙突外径に合ったメガネ石と強化眼鏡板をご使用下さい

煙突掃除について

- 1) ストープの周りに灰や煤が落ちててもよいように、ビニールシートや新聞紙を敷く。
- 2) ストープ本体と煙突を外し、ビニール袋を煙突にガムテープ等で取りつける。壁出し煙突の場合はT曲のフタを外し、そこに袋を取りつける。
- 3) 煙突掃除には煙突径と同じ径のワイヤーブラシを用意し、掃除棒にしっかりと取りつけて少しずつ動かす。これを2～3回ほど繰り返しますと殆どのススやタールは取れます
- 4) 煙突内の掃除が終わったら、外した煙突を元通りにセットし終了。

※煙突掃除に必要なもの

脚立(安定性のよいもの)、梯子(高さ調整の出来るもの)、マスク、手袋、新聞紙、ビニールシート、ビニール袋、煙突用ワイヤーブラシ、煙突掃除棒、ガムテープ

※屋根勾配の急な場合は、無理をせず室内から掃除をしてください。

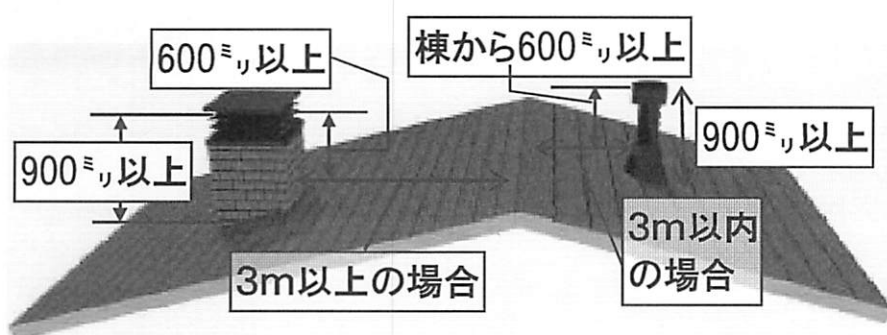
※屋根の上での掃除は十分に注意を払って足場を確保し、決して油断しないで下さい

ストーブが良く燃えない、煙が逆流する

下記のような原因が考えられます。

- 1) 給気が十分取れていない場合に起こる。これは気密性の高い住宅や24時間換気の住宅に多く見られ、ストーブの扉を開けると炎が室内側へ逆流するバックドラフトの原因になり危険です。
室内に十分な空気を供給するために外気取入口を設置するか、部屋の扉を少し開け気密性を緩和させてご使用下さい。
また焚き付け時に室内で換気扇などをご使用の場合、室内の気圧が下がり、煙が煙突に吸い込まれませんので、着火時は換気扇を止めて下さい。
- 2) 煙突の高さが足りない場合にも起こります。室内に煙が逆流し充満する事もあるので、室外煙突を延長し高くして下さい。
煙突設置基準では横引き長さ(室内高さ1/3以下)に対して、室外煙突高さは1.5倍～2倍以上ないと十分なドラフトが得られません。
- 3) 設置環境が風圧帯にある場合にも起こります。風圧帯は建物の屋根の形状や周辺的环境によって、室内の気圧や煙突内の気圧より、屋外の気圧が高圧になる現象です。
この気圧差により、空気が煙突内に引き込まれて逆流してしまいます。
煙突トップを棟より高くして下さい。風圧帯は気象条件でも異なります。
- 4) スス・タールが煙突、ストーブ本体に付着していませんか？
煙道内が狭くなると排煙の通りが悪くなります。しかも煙道火災の原因にも繋がりますので煙突、ストーブの掃除は、こまめに行なって下さい。
また使用する薪についても、広葉樹をお勧めします。
松や杉などの針葉樹はヤニが多く、完全燃焼しないとクレオソートを発生させ煙道内に付着し易いです。湿った薪や生木も不完全燃焼を起こし易く、煙道内をスス・タールが堆積し、狭くしてしまいますので危険です。
薪は薪割してから1年くらい、風通しの良いところで乾燥させてからご使用下さい。
或いは鳥などが巣を作ってしまうと同様に煙道を塞いでしまいますので、掃除して取り除いて下さい。

煙突の高さについて



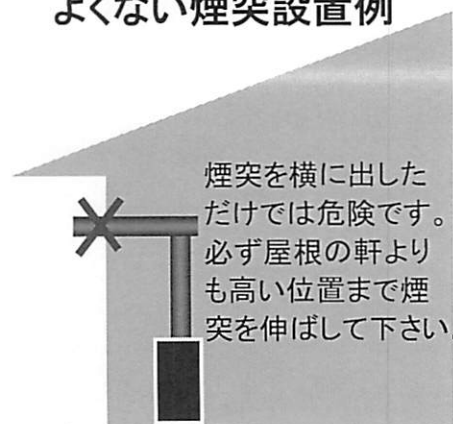
<屋根出し煙突の場合>

煙突はなるべく曲げずに真っすぐ立ち上げるのが理想です。当然外気に触れる面積も少なく済みますのでドラフト効果も良好になります。煙突の設置は風圧帯に入らないよう、上記煙突高さを基準に設置して下さい。また屋根を貫通する付近は耐火処理をして、必ず二重煙突をご使用下さい。施工については専門知識を持つ施工店、販売店へご相談下さい。

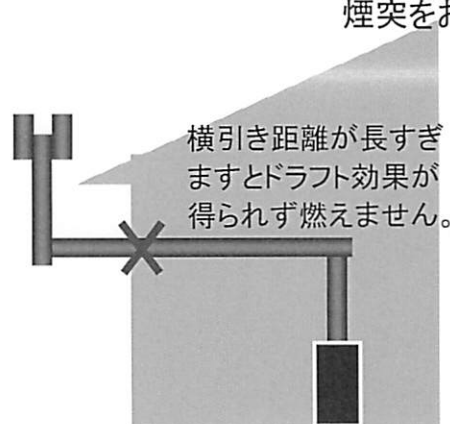
関連法令

- 消防法第九条
(火を使用する設備、器具等に対する規制)
- 建築基準法施工令第115条
(建築物に設ける煙突)
- 火災予防条例準則第1条(目的)
- 火災予防条例準則第6条(壁付暖炉)
- 火災予防条例準則第17条の2
(火を使用する設備に付属する煙突)
- 国土交通省告示225号

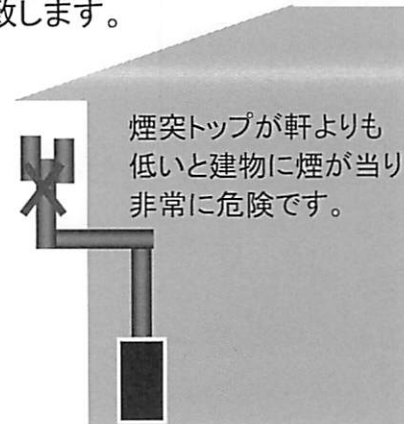
よくない煙突設置例



煙突を延長して軒よりも60cm以上高くして下さい



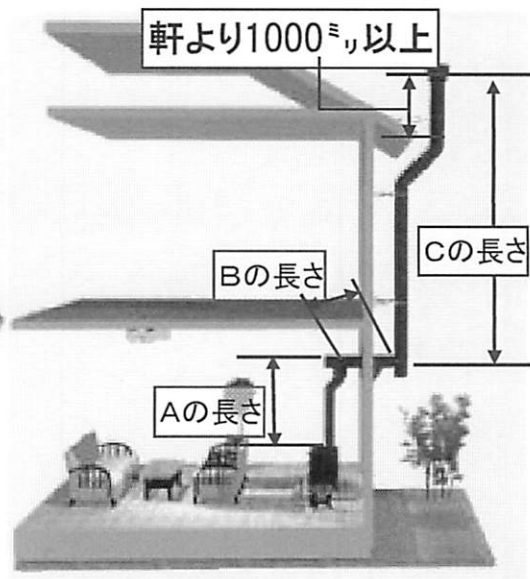
ストーブを置く場所を壁の近くに設置して下さい



2階建以上の住宅でもトップは軒より高くして下さい

壁出しの際は必ず眼鏡石を使用して下さい。

以上の事項に十分注意して、安全に薪ストーブをご使用下さい。



<壁出し煙突の場合>

煙突を壁出しで設置する場合、効率よく燃焼させるため横引き(B)の長さを室内煙突長さ(A)の1/3以下で設置するのが理想です。しかし家の構造や屋根の軒などの都合で横引き距離を伸ばす場合は極力1m以内で横引き(B)を設置して下さい。それ以上伸ばしますとドラフト効果を得られなくなり、ススやタールが溜まりやすくなります。そして室外煙突(C)の長さは(B)の長さの1.5~2倍以上長くして下さい。また壁出しの場合は煙突が外気に触れる面積が大きいので、熱せられた煙が冷やされ結露してしまいますので、二重煙突をお勧め致します。